

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立熊野高等学校	夏目 康弘
学校所在地		
〒649-2195 tel 0739(47)1004 fax 0739(47)4200 E-mail admin@kumano-h.wakayama-c.ed.jp		
担当者名		役職名・担当教科
田城賢司／酒井久視／宮地良斉／中谷隆太		教諭・地歴公民科
<p>〔学校の概要〕 本校は和歌山県の中央部、田辺市・白浜町に隣接する上富田町に位置する。古くは“口熊野”とも呼ばれ、古道が本格的な山道〔中辺路〕に臨むところでもある。町内の八上王子・稲葉根王子は昨年世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録され、改めてその価値を再認識している。 本校は林業学校を前身とし、現在、看護科・総合学科の2科が設置されている。 純朴でどの子もよくあいさつをし、部活動に積極的である。 また、町内唯一の高校であることから、隣接の上富田中学校とは授業参観交流(教員)や部活交流を行い、上富田町とは学校クラブ サポーターズリーダーを中心に、イベントへのボランティア参加や合同防災訓練、地域の高齢者への声かけ等を行っており、地域との関わりが深い学校である。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等(延人数)	主な活動場所
学年2年生 20名	1名 職員 4名	本校会議室
実践研究テーマ		
世界遺産を通して学ぶ地域の歴史文化		
実践教科等名	単元名	
社会文化研究(地歴公民科)	地域の歴史文化	
<p>〔キーワード〕 世界遺産 熊野古道 情報発信 地域 観光</p>		
<p>〔単元目標〕 (1)世界遺産が設けられた経緯や意義、世界・国内の遺産の状況など基本的な事項について理解する。 (2)「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識について学ぶとともに、世界遺産としての熊野古道がどのような価値を持つものなのかを理解する。 (3)(1)(2)での理解を踏まえ、現地学習を通して熊野古道の魅力を体験的に学び、高校生の視点からその魅力や価値、保全のあり方について考える。 (4)フォトエッセイ作成を通して、これまでの学習や体験で得たことを情報発信する立場からまとめる。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕 全体 50 時間 (「世界遺産を通して学ぶ地域の歴史文化」 8 時間)</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県世界遺産センター 世界遺産連続講座 講師 熊野古道フィールドワーク 講師・ガイド</p>		

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	世界遺産入門連続講座① 和歌山県世界遺産センターの講師による講義とワークを通して、世界遺産とは何か・日本の世界遺産について、学習した。	ワーク時における巡回指導を行うとともに、活発な学習を促す。	〔関心・意欲〕 グループワークへの参加・ワークシート 〔知識・理解〕 ワークシート
2	連続講座世界遺産入門② 紀伊山地の霊場と参詣道(1) (2)		
3	和歌山県世界遺産センターの講師による講義とワークショップを通して、「紀伊山地の霊場と参詣道」について、基本的な知識[ルートや王子とは何か等]や「文化的景観とは何か」について学習する。		
4	熊野古道フィールドワーク	高校生自身が感じる熊野古道の魅力をテーマに、和歌山県世界遺産センター職員の方々のガイドのもと滝尻王子から高原熊野神社までを歩く。 今回は熊野古道フォトエッセイ作成のため、各自デジタルカメラを持ち、古道の魅力とを感じるシーンを撮影する。	〔関心・意欲〕 〔思考・判断〕 観光からみた熊野古道の魅力を感じ、その発信のための情報を収集する。
5	熊野古道フォトエッセイ作製	フィールドワークでの写真とインターネットでの調べ学習をもとに、生徒自身が感じた古道の魅力を発信するためのフォトエッセイを作製する。	〔技能・表現〕 作製したフォトエッセイ
6	古道パンフレット発表会	前時に作製したフォトエッセイの発表を行う。	〔知識・理解〕 〔思考・判断〕 〔技能・表現〕 パンフレット発表

〔単元学習の成果と課題〕

本単元は、年間の主要な学習主題の1つである。講義とフィールドワークをセットで実施することで、世界遺産の意義から熊野古道が世界遺産としてどのような価値を持つのかを知識と体験から学ぶことができた。知識については、定期考査とリンクさせることで定着をはかった。学習のまとめとして、フォトエッセイづくりを行った。フィールドワークは学んだ知識を確かめる機会でもあるが、一方で高校生が比較的慣れ親しんでいるデジタルカメラを使うことで、生徒自身がどのように古道を捉えたか？感覚的な部分を捉えることができるため、例年実施している。情報発信の一環としてフォトエッセイを行っているが、現状は古道を歩いた感想のものが多い。情報発信の観点で事前学習が必要である。

〔世界遺産学習の効果〕

本年度も、1年次の熊野古道ウォークとは違った視点を持つことができた意見が見られた。半ば当たり前の風景の価値を見直す大きなきっかけとなった。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

予算の関係もあるが、高校生も世界遺産の保全を担う意識を持ってもらうため、語り部の方や道普請の取り組みをより具体的に扱って行きたい。



熊野古道フィールドワーク[平成 29 年 1 月 27 日実施]

日程変更のため、今年度は 2 年生 20 名が参加した。滝尻王子～高原熊野神社を歩く。パンフレットの作成にむけて、各自が魅力に感じたシーンをデジタルカメラで撮影した。

《日程》

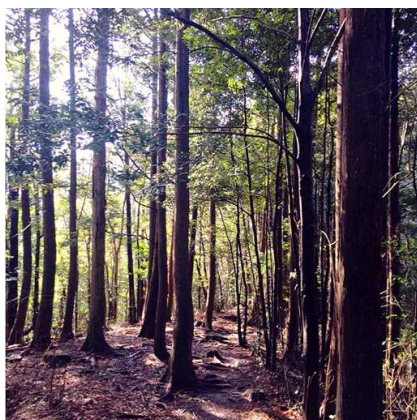
- 13:20 滝尻王子
- 15:30 熊野高原神社

熊野古道フォトエッセイ作品例

各自が写真を取り、パンフレットづくりを行った。パンフと言いながら、エッセイ風の仕上がりとなっている。古道に関する情報は 200 字程度におさえ、写真の説明や感じたことを中心に記述している。

熊野古道歩いてみて

今回は滝尻王子というところから高原熊野神社まで約 3.7 キロの道のりを歩きました。1 年生の時に授業で歩いてそのときすごく疲れたので正直今回もあまり行きたくありませんでした。滝尻王子から出発して最初の 400 メートルが山の斜面が急でいちばんきつかったです。古道歩きというより山登りをしているような感じでした。歩いていると 500 メートルごとに看板が立っていてそこには万が一のための救急の番号などが書かれていました。



この写真はちょっとした空き時間に撮ったものです。ふいに撮ったものだけ神秘的で神聖な感じがします。今回の古道歩きでは休憩はほとんどなく、自分たちが歩いた時は雨が降った後だったので湿っていてすごく滑りやすい道になっていました。靴もとても汚れてしまいテンションが下がりました。でも昔の人たちはこんな状況やこれよりひどい悪天候でも常に歩きつづけていたことを考えると靴がどうか言っている場合じゃないなと思いました。しかも昔は今のようにこんなに道も整備されてなかったし、木の枝も切られていない状態だと思うので苦労して歩いていたのだなというのが感じられました。今は枝が切られていたり、道も掃除されていたりでとてもきれいです。現在の景観が保たれているのも地域の方々のボランティアなどがあるからだと思います。

自分たちが歩いたのはそのごく一部分だけでしたが昔の人の苦労がわかるととてもいい経験となりました。

熊野古道を歩いた発見

滝尻王子の道のりはとても険しくて大変でした。大きな木に囲まれていて、地面は木の根がたくさんはっており、一部雪や氷がのこっていて滑りやすくもなっていました。最初は登り道が多かったし階段ばかりで歩いている時は周りの景色を見ている余裕がありませんでした。でも、少し止まってみると、木の間から太陽の光が見えていたり、空気も冷たく澄んでいて、どの場所を見ても綺麗に感じました。胎内くぐりを初めて体験しましたが、くぐると安産になると、昔からの言い伝えが今でも続いていることが素敵だなと思いました。



この写真は一番最後に展望台で撮った写真です。辺り一面に自然が広がっていて、開放感でいっぱいになった瞬間でした。葉っぱの色でもとても冬を感じたし、晴れの日や季節ごとにもっときれいな景色が見れると思うと、もう一回行ってみたいなと思いました。途中で高原熊野神社で引いたおみくじが大吉だったので余計にいい気持ちでこの景色を見ることができたのかもしれません。

熊野古道を歩くと、綺麗な空気や自然を実際に見ることができ、自分の心も綺麗にしてもらえているような気分になります。いつもは行かない場所だからこそ和歌山っていいなと改めて感じることもできたし、他にも自分で調べていろんな場所へ行ってみたいなと思いました。それに、私が歩いた場所にはゴミひとつ落ちていませんでした。地域の人や観光客である私たちが気を付けて、素晴らしい自然をこれからもずっと残していくべきだと思いました。

